

□11月30日説教(隅野瞳牧師)短縮版  
「ひとりのみどりごが生まれた」(イザヤ8:23b～9:6)

紀元前7世紀頃、北イスラエルに主の御言葉が告げられました。「闇の中を歩む民は、大いなる光を見 死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。」異教の神々を礼拝し、主を信頼せずに強国と戦おうとした北イスラエルは、アッシリアに捕囚となりました。しかしイザヤは彼らに、天地創造を思い起こさせる御言葉を語ります。主の光が輝く時アッシリアの支配は終わり、主の前にもともに喜び祝うようになるのです。この預言は数百年後にお生まれになるイエス・キリストについても告げています。神から離れている時、私たちは罪と死に支配された自己中心な歩みしかできません。しかし主イエスを救い主として受け入れる者は罪と死から解放され、永遠の命の喜びに生きるのです。愛する人の苦しみも、つらい環境も、自分の罪も、自分では変えられません。しかしそこにこそ、すべてを照らし救い出す主の光が降り注ぐのです。

御子は全能の神なのに無力な赤子として生まれ、十字架と復活という人の考えの及ばないご計画をもって、救いを成し遂げられます。そのような方が私たちを導き、私たちの声に耳を傾けてくださいます。御子は私たちを神と和解させ、人との間に一致を造り、平和の福音を運ぶ務めを与えられます。これらすべてを成し遂げられるのは、主の熱意によります。

ダビデの子孫とは栄光ではなく、神に背いてきた者たちの歴史であります。大変な罪を犯し、主の御前に深い悔い改めをもって出たダビデを主は憐れみ、新しい命を授けられました。ダビデは、主の憐れみによって救いのご計画に入れられた者たちの恵みを代表しています。その子孫として聖霊により、罪なき方としてイエス・キリストがお生まれになりました。すべての人の罪の裁きを担って十字架に死に、よみがえって永遠の命をお与えになるためです。

異邦人の光として来てくださった主イエスを通して、私たちはチャレンジを受けます。それは自分で囲いを作ることなく、自分と違う人、避けてきた人、今まで無関心だった人のところに行き、お迎えしようということです。自分の隣人を限定するところから主は、愛する自由へと私たちを招いておられます。